

会長 鈴木 龍成

「新年祝いの詩」(木村岳風)の名句のとおり、晴れやかな新年を迎えました。皆様、明けましておめでとうございます。

世情は決して明るい話題ばかりでは
ありませんが、せめて、我が吟界では
希望溢れる年になって欲しいと願うや
切にというところです。

平成廿二年終盤のメイン行事であり

多支己

第 39 号

平成 23 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成二十三年岳精流指標

初心に帰る

またその三グループが別の温習会も、それ
ぞの濃いものを得たこと、極めたい
容の濃いものを得たこと、極めたい
独吟の機会を得たこと、極めたい
た会であつたと思ひます。新しい
の方も、先輩の方も、この経験は大
なもので、先輩の方も、この経験は
なげいて、下さい。一層の飛躍につ
年（平成廿三年）が千代田岳精会開設
廿五周年に當るのを機会に「二五
（教場・分室）二五〇名會員」の実現
目標を提起した。十二月十三日開設の
「聖蹟桜が丘」分室をもつて「二五〇
名」が一月一日で実現いたしました。
全會員のご協力の賜物と大いに喜び合
いたいと思ひます。

私たちの吟詠活動は、教場・分室が
原点であることは常に申し上げてい
るところですが、新しい會員さんを迎え
新しい雰囲気を作り出さうことが、非
常に大切だと思ひます。温習会でも、
やはりで新しい會員の方々と交えてい
ること、フレッシュさで明るさに満ち
溢れて、迎えた廿三年は、開設廿五
周年の記念の年に當ります。昭和六十
年四月に「千代田教場」として、飯田
精鷹先生のご指導のもと、スタートを切
った「千代田」で、積み重ねられて、先
輩の方々とご努力が、発展の歴史を歩ん
支部・会へと躍進が、発展の歴史を歩ん

できたわけであり、教場の分離、新設も積極的に進められ、また活動の組織化のための「部門」の設置、充歌「演奏」「剣詩舞」等諸研修の充実、加えてユニークな「自作自詠」研究なども加わって幅広い活動が展開されてきています。まさに、廿五年“は前進と拡大の歴史だと申せます。この積み重ねてきた歴史に一層の拍車をかけるべく、今年には次の重点事項に取り組みたいと計画いたしております。

一、全拠点（教場・分室）が年初から会員一名の純増を実現しよう！

二、「武道館合吟コンクール」への男子チーム出場と上位入賞を実現しよう！

三、「開設廿五周年記念大会を成功させよう！

右の諸事項達成のため、関係部門でいろいろな計画を樹てていますが、コンクール練習の二月スタートや、新しい会員の方々への研修充実の環境としたい。初級研修を二回開講、あるいは九六名（十二月現在）を擁する女子部会員の合同研修会の実施等の企画が進められていきます。「記念大会」への準備委員会の立上りは申すまでもありません。

今年が、私たちにとって、充実した明るい年となりますよう、お互いに健康に留意し手を携えて進むことを願っています。





◇Aグループ（丸ノ内第一、丸の内第

◇Bグループ（東陽町、丸の内女子、八田仁風丸の内第二副校長）

十月十九日（火）杉並公会堂
参加人数 八三名
全般的に教場での練習の成果が十分
に発揮され、素晴らしい吟詠が多く、
吟力の向上が鮮明に見られた。
全員参加は運営面でも発揮され支障
無く進行され、和氣藹藹の懇親会と合
わせて落ち着いて楽しんだ温習会でし
た。（菅原龍琴丸の内女子教場長）

◇Cグループ（神田、ハザマ、鍊水、

十月十七日（日）太田文化の森

この一年間の練習成果の発表と四教場の懇親を目的とした。

① 出吟順、座席とも教場枠を取り除き配置した。

② コンダクター伴奏も発表の一部と考え交代制とした。

③ 席は結婚披露宴の様な配置とし、その俣懇親会に移行した。

（菅原克風練水教場長）

全国吟剣詩舞道大会
本部男子チーム堂々の準優勝！

十一月十四日、武道館で開催の合吟コンクールは全国から四六団体が参加した。岳精流から本部男子、三河女子、天童王将女子、六郷女子の四チームが出場。千代田から十二名出場の本部男子が見事優勝を果たし、念願のメダルを手にした。なお三河七位、天童王将十四位と大健闘であった。

合吟コンクールで準優勝の感激
新宿第二 入住 章雄

平成廿二年十一月十四日、武道館。参加四六チームは全て出吟を終え、結果発表を待つ。『第二位、三五番岳精流日本吟院男子』我々のチームが呼ばれた。第二位。準優勝だ！チーム全員が拍手と歓喜の聲が挙がる。突然仁



星野久風（清水）

か分らない強い電流が背筋から後頭部へ走る。更に感極まって喜びの涙が流れ出て止まらない。「優勝こそ逃したが、全国第二位だ、これで胸を張って教場に帰れるぞ」。

今年、武道館出場に対する本部の意気込みはすさまじかった。練習は計十五回、最初から「優勝」しか頭がない。園田・佐藤・家吉各先生から毎回熱心な指導を受ける。目標とする吟は女性的な吟に勝つ気魄と迫力に満ちた男性的な吟―基礎である素読や発声練習を行的な吟―基礎である素読や発声練習を行ない、各部分の吟じ方をテープに入れ、確認する。練習の中盤になると言葉の各部分の入り、出のタイミングが揃い、皆の心が一つになって来ているのが判る。更に大会直前、宗家先生が「味わいと気合の入った吟―へと繰返し熱血指導された。この指導でそれまで八〇点位の出来が一気に九五点位に跳ね上がる。私に伝わる吟になったと思われる。私は入会して丸三年、武道館出場二回目で銀メダルを頂いた。大変光栄である。これから練習で学んだ吟を実践に生かし、更に飛躍を目ざしたい。最後に、ご指導頂いた宗家先生から感謝したい。」

酒井新宿教場長に

2

奥伝(十四名)

奥伝師範
(十二名)

[illegible]

金子澄山
(東陽町)

ハザマ 功刀 蒼風

藤仁山山三小金青酒加
原木崎口ッ林子木井藤
井
寿勢洋勝愛明澄恭帆虎
山山山山山山山山風風
丸鍊神清神東東草新ハ
女水田水業陽陽加宿ザ
坂町町マ

私は平成九年三月五日、当時の岳精流日本吟院千代田支部二入会し、十三年を経て平成廿二年十一月三日奥伝審査を受けた者です。一年前に受審する筈であったが病氣入院のため一年遅れの受審でした。

当日は家吉先生が審査員で、指示された吟題は吉田松陰作「辞世」でした。小学生時代より尊敬していた吉田松陰先生の詩でありました。私は詩吟が好きで、また健康的にも第二の人生に良き道であると確信いたし、毎回教場の研修を大いに楽しんでゐる日々です。ハザマOBのみでスタートした教場ですが現在では松戸分室を含めて、OBが以外の男子会員七名、女子会員五名が入会され教場の雰囲気、非常に良く三七名毎回楽しく研修しております。この度奥伝という資格を許され、ある意味で指導的立場に立つわけですが、私は常に教場の良き雰囲気、醸成に心を配り、会員の良き一日を楽しみ過ぎては、さる事に深く心がけて居ります。

一方、詩を吟ずるに際しその詩心を良く考慮し、詩情を込めて吟ずること

をモットーにして楽しんでおります。飯田最高顧問、鈴木会長のご指導を得ており、人格技倆及び教習方法に於て優秀な指導者に恵まれまことに幸福であります。今後は榮えある流統の一員として益々研鑽に励み、教場、会及び流統の隆昌発展に貢献したい所存であります。

奥傳審査を終えて
丸の内第二教場長 山口 隆風

平成十年に入会し、本日奥傳審査を
迎えた。会場サンワークに集合、緊張
した雰囲気に見える。十時に審査開始
審査の先生は宗家と前澤先生と聞く。
受審者中一番目が私で、廣田了風さん
と二名が試験場に入った。あらかじめ
奥傳の場合指定吟が二題あり、吉田松
陰の「辞世」と元好問の「山居雜詩」
そして俳句と云うことであつた。宗家
から「山居雜詩」を二人共吟じて下さ
いと言われ吟じ終えた。緊張の一日で
あつたが、楽しい一時であつた。

奥伝審査を了えて
中野分室長 徳本 順風

「秋日春朝に勝ると」と劉禹錫が詠じた秋本番の十一月三日、恒例の奥伝以上審査が行なわれました。私はこゝ数年許証部門担当として審査業務のお世話話をさせて戴いていますが、自身は三年振りの受審でやはり緊張の一日でした。しかし家吉先生の配慮ある優しい審査で、無事吟技を合格させて頂きました。

私と詩吟の縁は十三年前、小唄を一緒に緒していた大槻鋒風さんから誘い

す。今後とも吟友からのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

中伝準師範を受審して
東陽町 金子 澄山

二年の度は筆記試験とのお話、昭和四
かしまの運転免許以来十年、銘出
長熱心な指導のおかげで、お仲間
ないかと思ひます。本アを吟詠と
良い趣味に巡り逢い、そして先生、晴
しいお友達が大勢出て来て、先生、や
人生を過ごさせて頂いて、先生、や
努力を致し、吟が少なくて、先生、や
有難うございます。教場長に感謝々々、願

中伝準師範試験を終えて
丸の内女子 藤原 寿山

仲間の事をしながら諸先生、諸先輩、お
奇心から始め、詩吟で健康維持、発
声、腹式呼吸、私に、どれ、歩み、と
未だにも遅く、思ひ、我、吟、楽、し
さ面白さは、年数、重ね、毎、感、機、い
まは、山程、の、試、は、これ、頂、く、事、が
と、な、ま、し、た、や、と、入、口、に、立、つ、事、が
出、来、ま、し、た、今、後、も、ま、ず、お、き、た、い、な、が、思、い、ら
学、び、健、康、を、維、持、し、て、ま、す、仲、間、の、皆、様
に、ま、心、か、ら、感、謝、申、し、上、げ、ま、す。

年男。年女

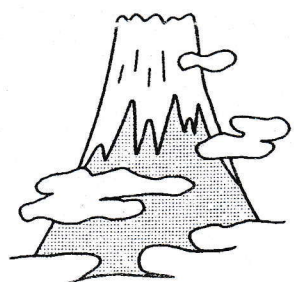
今年の干支は辛卯です

年の細やかな夢

中野 三好 彬弘

入会後初めての年を越し、還暦後の十
二歳になり、過ぎた古稀も、今では単
なる通過点に過ぎない。年相応の变化
を余儀なくされ、自然に年を重ねる。十
二歳と云う、うなづかぬ、高き、自然に年を重ねる。十
望むべくも、あり、初夢に、期
待、し、ま、し、よ、う、か、ま、せ、ん、初夢に、期
確、実、に、増、え、た、の、が、練、習、後、の、ノ、ミ、ユ、ケ、
情、溢、れ、る、返、り、指、導、の、後、先、輩、の、方、の、ノ、ミ、ユ、ケ、
励、ま、し、よ、う、か、ま、せ、ん、初夢に、期
では、こ、の、練、習、後、の、ノ、ミ、ユ、ケ、
つ、に、し、よ、う、か、ま、せ、ん、初夢に、期
く、初、め、の、温、習、会、で、は、言、え、ま、す、的、の、良
は、荷、が、重、く、感、概、も、込、め、て、營、茶、山、の、良
に、は、出、来、る、だ、け、の、分、で、ま、し、た、が、新、米、に
気、儘、に、通、し、て、選、び、た、の、時、が、あ、り、ち
同、様、の、こ、と、を、先、輩、に、迷、惑、を、か、け、も
心、苦、し、い、思、ひ、を、し、た、こ、と、を、失、わ、ぬ
為、に、も、健、康、増、進、効、果、を、期、待、し、多、少、は、ま
よ、る、に、も、健、康、増、進、効、果、を、期、待、し、多、少、は、ま

とも、現在吟になる様、努めねばと思ふと共
よう、初夢を、実現すべく願っています。



近況

中野 小鳥 正弘

月、昨年、は、中々、実り、多、い、年、で、あ、つ、た、五
さ、も、り、詩、吟、の、あ、る、節、で、諸、先、輩、が、年、を、経
姿、勢、を、よ、く、見、え、る、感、心、の、連、続、を、し、る
詩、情、を、込、め、朗、吟、す、る、数、年、後、の、自、分、を、し、る
思、い、な、が、朗、吟、す、る、数、年、後、の、自、分、を、し、る
土、登、山、を、し、た、七、十、歳、か、ら、始、め、た、二、回、目、の、富
日、浅、間、大、社、に、古、稀、登、頂、の、富、士、山、本
宮、日、浅、間、大、社、に、古、稀、登、頂、の、富、士、山、本
先、者、一、七、〇、三、名、の、仲、間、入、り、が、送、ら、れ、て、来
頂、者、一、七、〇、三、名、の、仲、間、入、り、が、送、ら、れ、て、来
日、頃、の、足、腰、訓、練、を、継、続、し、今、年、も、秀、麗
富、士、山、の、新、た、な、氣、持、ち、で、登、頂、し、た、い、知、ら
れ、ざ、る、秘、境、を、描、く、村、の、ス、ベ、ス、に、参、加、の、し
た、つ、村、の、近、所、に、在、る、北、陸、の、首、都、大、引、張、り、の、加
あ、た、つ、村、の、近、所、に、在、る、北、陸、の、首、都、大、引、張、り、の、加
な、し、あ、た、つ、村、の、近、所、に、在、る、北、陸、の、首、都、大、引、張、り、の、加

十三枚の作品を現場で描き上げた。昔の面影をいまでも残す村、歴史の重み。的をまだ伝える村、思い出されぬ魅力。時にも成田↓パリ↓マドリッドの十五。また行きたくなるような矢張りこの十五。い。体力の必要はきつゝ、矢張りこの十五。も。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。時。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。し。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。的。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。を。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。日。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。十。余の必要はきつゝ、矢張りこの十五。

早朝ウォーキングが練習の場 健

新年のお喜びを申し上げます。あつと。調布の一年が経過し、十一月八日の。言。調布の一年が経過し、十一月八日の。教。調布の一年が経過し、十一月八日の。し。調布の一年が経過し、十一月八日の。る。調布の一年が経過し、十一月八日の。詩。調布の一年が経過し、十一月八日の。だ。調布の一年が経過し、十一月八日の。念。調布の一年が経過し、十一月八日の。出。調布の一年が経過し、十一月八日の。早。調布の一年が経過し、十一月八日の。往。調布の一年が経過し、十一月八日の。ま。調布の一年が経過し、十一月八日の。う。調布の一年が経過し、十一月八日の。

て毎朝練習を積み重ねました。杉並公会堂で。温習会が始まりました。ある程度、白。信。温習会が始まりました。ある程度、白。の。温習会が始まりました。ある程度、白。：。温習会が始まりました。ある程度、白。た。温習会が始まりました。ある程度、白。聴。温習会が始まりました。ある程度、白。次。温習会が始まりました。ある程度、白。程。温習会が始まりました。ある程度、白。

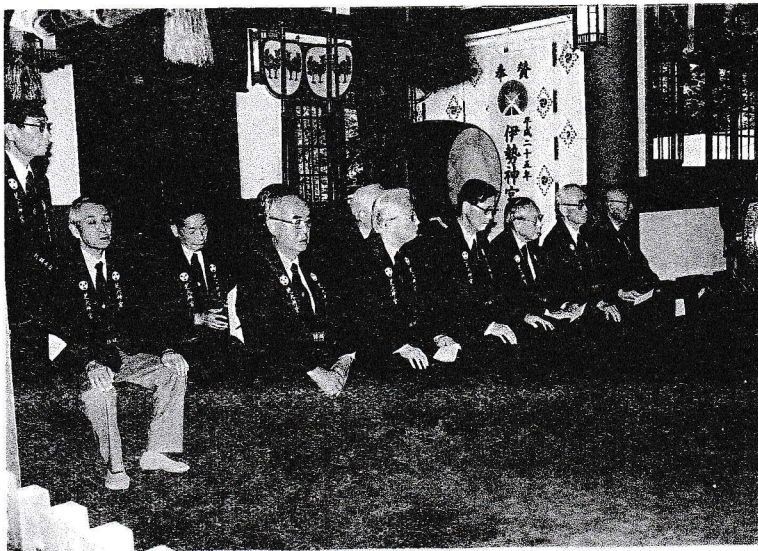
創立二五周年記念大会

記念大会プロジェクトは十月十六日。に。記念大会プロジェクトは十月十六日。へ。記念大会プロジェクトは十月十六日。營。記念大会プロジェクトは十月十六日。た。記念大会プロジェクトは十月十六日。年。記念大会プロジェクトは十月十六日。さ。記念大会プロジェクトは十月十六日。全。記念大会プロジェクトは十月十六日。準。記念大会プロジェクトは十月十六日。同。記念大会プロジェクトは十月十六日。企。記念大会プロジェクトは十月十六日。経。記念大会プロジェクトは十月十六日。広。記念大会プロジェクトは十月十六日。

『教場たより』

芝大神宮秋季大祭奉納吟 清水 松田 好泉

「芝神明のだらだら祭」と言われ、今。期。芝神明のだらだら祭」と言われ、今。年。芝神明のだらだら祭」と言われ、今。



たり。清水教場では月二回参集殿をお借。も。清水教場では月二回参集殿をお借。各。清水教場では月二回参集殿をお借。人。清水教場では月二回参集殿をお借。吟。清水教場では月二回参集殿をお借。時。清水教場では月二回参集殿をお借。山。清水教場では月二回参集殿をお借。偶。清水教場では月二回参集殿をお借。部。清水教場では月二回参集殿をお借。て。清水教場では月二回参集殿をお借。崎。清水教場では月二回参集殿をお借。錫。清水教場では月二回参集殿をお借。陰。清水教場では月二回参集殿をお借。姿。清水教場では月二回参集殿をお借。さ。清水教場では月二回参集殿をお借。

市川分室を開設

は鎌ヶ谷市に待望の分室が誕生。千葉県千代田として二四番目の拠点です。

九月一日 開設

第二・四木曜日 十六時～十八時

会場 西山定泉分室 新会員二名 主会場

教室 市川市内には小人数の流派等約三〇

の空いた日を自主練習の助言で、施設

化サークルとして二年目に同好会を作り文

点・千代田が昨年春「二五周年・二五

正式・二五〇名」をスローガンに掲げ、

早めて開設の要請があり、来春の予定を

は現在会員である「漢詩を読む会」の

積み重ねを考慮して、川柳などの文化サ

った諸先生、市川同好会の方々に厚く

お礼を申し上げます。今後とも指導宜し

くお願い致します。

聖蹟桜ヶ丘分室開設

◎丸の内第二教場桜ヶ丘分室

十二月十三日 開設

第二・四木曜日 十二時～十四時

会場 多摩市一宮 新会員四名

アクセス 京王線聖蹟桜ヶ丘駅から

川崎街道沿い徒歩八分

十一月三日、奥伝審査を終え、慰労

の席で地元で教場開設を表明、翌日に

は会場を決め、十二月十三日に開設披

露を鈴木会長、磯田常任顧問をはじめ

丸二、東陽町、ハザマ、清水教場から

吟友が四名出席され、開催、入会予

定者も四名出席され、開催、入会予

京王線沿線は調布分室に続き二拠点と

なりました。

この二分室の開設により、目標の二

五拠点が見事に達成出来ました。お二

人の室長さん有難う。皆さんの温かい

ご支援をお願い致します。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ビクタール剣舞全国大会で優勝

東陽町 小谷野 煌弘

ト、ホー、一般に於て全国決勝大会が開催さ

れ、神翠流神翠館に入門して早八年、

や、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

は、と東大会で優勝しました。五年前から

益々剣舞が楽しくなってきました。
精進していききたいと思ひます。
ご指導宜しくお願いします。

漢詩（十四）

丸の内第二 八田 仁風

舟艇守の尺八 大野 孤山

炎熱の夏は去りて秋風来る

風は清し湘南逗子の渚

微かに聞く洞簫の遙かに漣を渡るを

杖を停めて耳軟つれば千鳥の曲

斯の曲老来忘るる能わず

昔提督八代の愛曲

四十五年一夢の中

哲人一たび去って復帰らず

一竿の霊音能く昔を映して

竹に問う今代勇士の心

涙雲日を蔽うて将に人をして泣かし

秀嶺見えざるは反って情有り

去らんと欲して低回去る能わず

室に入つて簫を見れば純忠の士しま



大野 孤山（一八八二～一九五五）
宮城県生まれ、家貧しく苦学して海軍
を志願。日露海戦では、八代艦長の巡
洋艦「浅間」で部下として戦う。八代
の訪英にも随行、終生敬慕した。退役
後は逗子で英語を教えながら漢文学三

「新會員紹介」

上村逸夫氏（十月入会）

うです。今後とも、官

山田勝氏（十月入会）

に先輩方を驚嘆させま

◆清水教場中野分室

思っていました。この

原口美保さん（十一月入会）

せらず、長続きすることな

島田 政敏氏（九月入会）

会（尾崎大東文化大講師）

富男氏（九月入会）

ります。

永岡 詠山氏（東陽町）



が期待されます。
(八田)